



いなよし てるお 議員
稲吉 照夫

附帯決議の重みの受け止めは

決議内容を尊重しながら進める



空き家利活用の現状と、事業計画の是非を問う。

問 幸田駅前銀座を使用するに至った経緯は。

答 企画部長▼コロナ禍での、新たな出店は見込めない状況である。一等地での空店舗状態は、幸田町のイメージ低下と、店舗衰退の連鎖が懸念されるため、今回の取り組みとなった。

問 行政が使用するのではなく、環境を整えるなど、支援するのみで良いではないか。

答 社会福祉団体活動の場の確保・維持を目指す。空き店舗への新たな出店者を導出することを目的として、実施した。

問 チャレンジショップの計画は、駅前銀座ではなく、駅前通りの空き家を使用する考えは。

答 今回の商業施設に特化することなく、魅力ある駅前空間を作り、駅前全体の賑わいにつなげたい。

問 荻地内の古民家利用の目的は。

答 荻地域の活性化とコミュニティの醸成を図る場所として、利活用する。

問 現在賃貸料が明示できないのはなぜか。

答 「公用および公共の用に供する土地および建物の賃貸料算定基準」に準じて、今後、算定する予定である。

問 工事契約前に、家賃などの明示を約束願う。

答 8月の協議会で、報告できるように進める。

問 議員全員一致の附帯決議の重みを、どのように受け止めているか。

答 町長▼決議内容を尊重しながら進める。

文化財的古民家の保存計画は

保存計画作成の予定はない

家康公の乳母である「まつ」を祖とする、500年の歴史ある内藤家がある。文化財的評価の判断をする時期にきていると思う。

問 町としての文化財的古民家の保存計画は。

答 教育部長▼保存計画作成の予定は、現在は無いが、文化財の把握は、やっていく必要がある。

問 文化財指定を受けた時、この家で生活できるか。

答 所有者は、退去していたことが、望ましい。

問 見学を受けなければならぬか。

答 困難な理由がない限り、公開は求められる。

問 公開が求められると、周辺環境整備は。

答 周辺住民に、迷惑にならないよう、整備検討が必要である。

問 「指定文化財が価値を失った場合」

とあるが内容は、自然災害による、破損等が想定される。

答 「文化財の現状変更等の届け出」とあるが、どの範囲か。すべての行為が対象となる。例えば、建造物であれば、柱の修理、窓の修理、瓦の取り換えとか、些細なことでも対象となる。



東京大学の准教授による「芦谷陣屋正面長屋門」の調査



たきょう つかし 議員
田境 毅

ワクチン接種の事故防止対策は

従事者マニュアルを作成する



接種後に待機する人達

問 全ての集団接種対象者が、安全かつ円滑に短期間で、接種し終える体制構築の課題を問う。

答 健康福祉部長▼相談と予約の回線を分けた。対面予約を始めています。

問 個別接種および集団接種の実績と課題は。

答 双方とも概ね順調が課題である。

問 接種シミュレーションで得られた成果と課題、反映項目は。

答 時間当たり接種人数と接種後緊急時の対応などを今後に活かす。

問 ワクチン接種の事故防止対策とワンスイクル作業徹底を。

答 従事者マニュアルを作成、特に注意を有する部分を徹底する。

業務効率化と利便性向上を

※AIチャットボットを導入した

コロナ禍における町政情報発信と、ICT活用対策が必要では。

問 ITリテラシー対応の現状と課題は。

答 企画部長▼職員はeラーニングによる研修の受講をする。高齢町民が取り残されることが課題。

問 かかわれる環境作りの考えは。

答 チョイスコの予約などスマホを使う機会を仕掛けていく。

問 情報発信の現状評価と取り組みは。

答 ホームページ利用者が大幅に増えた。町民のIT機器活用支援事業を推進する。

問 変更点、町民の声と評価や考えは。

答 町ホームページをスマホ対応にしたが、見づらいとの意見がある。町民の声を伺いながら利便性向上に努める。

問 職員の業務効率化と住民の利便性向上、実績と課題は。

答 AIチャットボットを導入し、効率化および精度を上げる。

問 オンライン申請移行の目安は。

答 令和4年度末を目指している。

※AIチャットボット

24時間365日、インターネット上で問い合わせに対し、あらかじめ整備されたQ&Aデータを基にAIが回答を行うサービス。

コロナ禍安心し働ける環境を

企業と地元大学の連携で成果も

コロナ禍による影響と今後の見通しを共有し、確かな支援につなげる

町政を円滑に推進する必要があるかを問う。

外国人相談、「よろず支援拠点」相談の実績と相談項目、

今後の取組みの考え方は。

答 企画部長▼令和2年度1373件、令和3年度1947件と増えている。転入・転出などの他、コロナ関連の相談も多い。今後は電話相談などを利用し支援していく。

問 環境経済部長▼相談窓口開設し、令和2年度25件受けた。現在殆ど無い。

答 新型コロナウイルス感染症対策基金の令和3年度末見込み残高は。

問 企画部長▼1億3401万円。中小・零細企業や現役世代などへのコロナ禍で安心して働ける環境作りや支援を。町長の考えは。

答 町長▼町内の企業体験などにより、就職できた学生さんもいる。地元大学との連携の成果だと思つ。